

短歌に詠まれたのえ

1933年(昭和8)11月、夫の鉄幹とともに毫摂寺を訪れた与謝野晶子は、数首の短歌を残しました。そのうちの一首の歌碑が毫摂寺境内にあります。

晶子は、かつて闘ったのえ(釈清心尼)もいのししも、今はともに浄土で仏弟子となっていることであろうと詠んでおり、のえのエピソードを「忠」ではなく真宗思想の面からとらえています。



おもへらく
釈清心も
ゐのしゝも
今はほとけの
御弟子
ならまし

晶子

釈清心は、のえの法名